

IV-238 街路景観の評価に関する、「好きー嫌い」「善いー悪い」について

岩手大学工学部 学生員 ○齋藤 彰
 岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
 岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一

1. はじめに

現在、景観実験の対比較法等の評価では、評定尺度としての形容詞対「好きー嫌い」「善いー悪い」を同じ意味の評価因子としており、その評価を区別していないことが多い。本研究は、「好きー嫌い」「善いー悪い」の言語の意味を吟味し、街路景観を例に評価の内容の相違点について考察しようとするものである。

2. 言語の意味

「好きー嫌い」「善いー悪い」には言語の意味においての違いがあることを表-1に示す。表-1に示すように「好」は、大事にして可愛がる意を表わし、「好き」は、物事を愛する感情を表わすという意味を持つ。「嫌」は、あれこれと気がねし、思いが連続して実行をしぶることを示し、「嫌い」は、憎みきらうことを意味する。「善」は、たっぷりみごとな意を表わし、「善い」は、状態、機能がすぐれ道理にあっているという意味を持つ。「悪」は、下に押し下げられてくぼんだ気持ちの意を表わし、「悪い」は、物事の本性や状態が他より劣っているという意味を持っている。

表-1 「好きー嫌い」「善いー悪い」の意味

意	意味	漢字の成り立ち
好	物事を愛好する心持ち、物好きさま。自分の好きのままにふるまうこと。	「女+子(こども)」の会意文字で、女性がこどもを大切に可愛がる意を示す。大事にして可愛がる意を含む。休(かばってたい)にせつにする) 好(大事に愛う) 本(根をたいせつにする)などと同系のことは、このみ、趣味という意味を持つ。
嫌	いやがる、憎みきらうこと。好ましくない要素、状態になる心配や傾向。	嫌は、禾を二つ並べ持つ姿。いくつも連続する意を含む。嫌は、「女+子」の会意形声文字で、女性にあらがちな、あれこれと気がねし、思いが連続して実行をしぶることを示す。
善	(善悪の立場から)理にかなっている。性質、状態、態度などがすぐれている。あるべき様である。	羊は、義(よい)や祥(めでたい)に含まれ、おいしくみごとな供え物の代表。言は、かどある明白なもの、言ひ方。善は「羊+言」の会意文字で、たっぷりみごとな意を表わす。顔、(おいしい食べ物)、請(みごとにそろった食べ物)置、(たっぷりとする)と同系の言葉。のち、広く「よい」意となる。善は、おいしい、むぎがうまい、道理にあっていること。信・良は、姿や形がすっきりしていること。
悪	物事の本性や状態などが他、あるいは標準に比べて劣っている。上等でない、粗末である	亞(ニ亜)は、角形に掘り下げた土台を覆った象形。家の下組みとなるくぼみ。惡は「心+亞」の会意形声文字で、下に押し下げられてくぼんだ気持ち。下折みでむかむかする感じや、欲求不満。空(下組みとなる土台)於(つかえる)と同系のことは。

※日本語大辞典 (日本大辞典刊行会・小学館)
 学研漢和大辞典 (学習研究社)

したがって「好きー嫌い」は感性的な評価、「善いー悪い」は理性的な評価の評定尺度として用いる必要がある。

3. 実験対象景観の設定

対象景観には、都市の骨格を形成している街路を選定した。具体的には、盛岡の街路をその格に応じて12選定した(写真-1)。

4. 実験方法および被験者

上述の12の街路を視点約1.6mの高さから自然な角度で撮影し、これを12枚のスライドにしたものを岩手大学の講義室において、2台のスライドプロジェクターでランダムに二対呈示した。まずはじめに「景観的に見て好きな街路はどちらか」を比較判断させる実験を行ない。次いで「善い街路はどちらか」を比較判断させる実験を行なった。

被験者は、岩手大学の男子学生38人である。解析のための理論には一対比較法の理論を用いた。

5. 解析結果および考察

「好きー嫌い」を評定尺度としたときの、一対比較法によってえられた間隔尺度の値を図-1に示す。図-1に示されるようにNo.3(主要幹線道路・表通り)の評価が一番高く、No.4(主要幹線道路・大通り)がすぐ次につづく。つづいて間隔をおきNo.12(特殊街路)からNo.2(幹線街路・表通り)の間のグループとNo.10(区画街路・住宅地沿道)No.6(補助幹線街路・裏通り)の間のグループが出来ていることがわかる。

次いで、「善いー悪い」を評定尺度としたときの間隔尺度の値を図-2に示す。図-2に示されるようにNo.3,4のスライドが上位に位置しているがその順位は逆転している。つぎに間隔をおいてNo.1(バイパス)そしてNo.2(幹線街路・表通り)と続く。残りは、全体の三分の一程度の間隔尺度に集中し下位グループを形成

している。

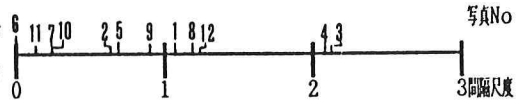
「好き－嫌い」の間隔尺度値と「善い－悪い」の間隔尺度値の結果を比較してみると、No.1(バイパス),2(幹線街路・表通り),3(主要幹線道路・表通り),4(主要幹線道路・大通り),8(補助幹線街路・住宅地沿道),12(特殊街路)に大きな尺度値の変化が現われ、No.3,4でも大きな尺度値の変化が現われ順位が逆転している。No.9(繁華街)の間隔尺度値にも変化が現われていることがわかる。

図－1, 2より「好き－嫌い」と「善い－悪い」の分析結果において、間隔尺度値全体の幅に違いが見られ、「好き－嫌い」において狭く「善い－悪い」において広い幅となっていることがわかる。

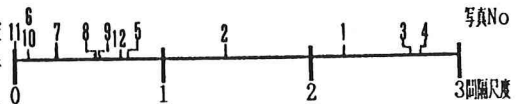
「好き－嫌い」の場合の実験結果の間隔尺度値全体の幅が狭いのは、被験者の街路景観に対する評価が感性的になされるためであり、その結果が曖昧になり、一方「善い－悪い」の場合の実験結果の間隔尺度値全体の幅が広いのは、被験者の街路景観に対する評価が理性的になされるためであり、被験者の評価が明瞭になるためであると考えられる。

6. 今後の課題

今後は、街路景観の一对比較法の実験と並行して、被験者の大脳半球機能の左右差を追求するための実験を行ない、得られた仮説に対する検証分析を行なう予定である。



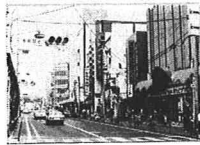
図－1 「好き－嫌い」の時の間隔尺度値



図－2 「善い－悪い」の時の間隔尺度値



No. 1
バイパス



No. 2
幹線街路・表通り



No. 3
主要幹線道路・表通り



No. 4
主要幹線道路・大通り



No. 5
補助幹線街路・繁華街



No. 6
補助幹線街路・裏通り



No. 7
補助幹線街路・繁華街



No. 8
補助幹線街路・住宅地沿道



No. 9
繁 華 街



No. 10
区画街路・住宅地沿道



No. 11
区画街路・住宅地沿道



No. 12
特殊街路

写真－1 実験に用いた街路景観